



茶指導販売課 福手 裕三

秋整枝

10月の作業は、摘採に次いで一番茶の生育や収量に大きな影響を及ぼす秋整枝が中心になってくると思します。秋整枝は、摘採面を整え翌年の一番茶に古葉や木茎が混入しないようにするための作業です。作業時期が早すぎると年内にその一部が萌芽してしまいます。萌芽率が20%以上になると翌年一番茶の減収が心配されるので、整枝時期は平均気温18~19°C以下になる10月上旬からになります。(参考・令和元年10月15日 管内平均気温18.3°C・JAおおいがわECセンサーデータより)

なお、秋整枝と春整枝では、春整枝の方が摘採時間が遅くなり、新芽のバラツキが顕著で、一番茶の品質低下に及ぼす影響が懸念されます。ただし、寒害や凍霜害が生じた場合の減収や品質低下と比較すれば、被害の程度が低いことから、気象災害の頻発茶園では春整枝を検討してもいいかもしません。

深さについて

最終芽(三番茶芽)の2~3枚残した位置で、葉層8cm以上を確保します。特に冬期に寒害を受けやすい地域や樹勢が弱い茶園については、葉層の確保を心掛けください。

最終摘採面(二番茶後整せん枝位置)より5~6cm上で整枝し、日差しの強い日は避け、機械の刃回転は早く、進む速度はゆっくりで丁寧に実施しましょう。

病害虫防除

赤焼病(10月中旬~下旬)

赤焼病は、秋整枝や台風などの強風時にできた傷口から感染して発病します。幼木園や自然仕立ての茶園など、風の影響を受けやすい茶園は、防風対策を行うと効果的です。発生に品種間の差が大きく、発病しやすいとされている「おくひかり」や「つゆひかり」などは、特に注意してください。

使用薬剤は、コサイド30000(1000倍)やドイツボルドーA(500倍)など。

チャトゲコナジラミ(秋整枝後の10月中旬~11月上旬)

近年管内の茶園でも常発しています。スス病が発生しているような多発園では、特に注意が必要なので、マシン油(50~100倍)による防除を行ってください。マシン油の散布により、スス病の軽減が可能です。